

猿新聞

編集・発行
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

鳥獣害対策は 農耕史、積年の課題

日本で農業が本格的に行われるようになったのは、弥生時代のことだといわれています。

それまでは、木の実を採ったり、弓矢による狩猟の生活。所謂、採集生産・狩猟生産の時代であり、その領域に生息する生物とは共存と競合の関係にあったと思われます。

弥生時代、水稻の栽培が本格的にはじまり、小麦、アワ、ヒエ、小豆などの畑作物も栽培されるようになり、採集生産から米をはじめとする穀物を主要な食料とする食生活に切り替わっていったと思われます。

この頃から、人間と野生鳥獣の軋轢が始まり、現在も続いている農業の積年の課題です。

江戸時代は農地も少なく、野生動物による被害が原因の飢饉も見られ、被害が深刻だった時代といえます。江戸時代に、造られたという「しし垣」が西日本各地に今も残っています。「しし垣」とは、害獣の進入を防ぐ目的で山と農地との間に石や土などで築いた垣のことで、害獣に対する先人の執念が忍ばれる貴重な遺産です。また、害獣対策として銃（火縄銃）はもともと効果的な農具として

用いられ、「威筒」（空砲のこと）の使用については、320年前の鉄砲禁止令発令当初より認められており、役所から一定の条件付きで、農民に貸し出されていた。

明治、大正、昭和に入ると、急激に農地が増え、意図的な餌づけは比較的に狭い範囲ですが、農業の機械化による収穫ロスなど、非意図的な餌づけは広域に広がっています。

また、耕作放棄地の増加など、「場所づけ」もありそうです。

対策について、私たちはいろいろな状況のもとで、科学的なデータを並べて、迷い考えをたてて、長い年月をかけて培われてきた先人の知恵、執念は、現代の科学を遙かに超えたものがあり、先人に学ばなければならぬことが多々あります。

近年、中山間地は少子高齢化、後継者不足などで耕作放棄地が拡大し、活力は著しく低下しています。中山間地の農業活動が活発だった頃は、その活力で、野生動物を無意識に奥山に押し上げていたのです。現在、中山間地は「スカスカ」状態になっていて、そこに逃げ込んで野生動物がどんどん侵入して来ているのだらうと思います。

中山間地域では、どこでも薪をとったり、牛馬の草を刈ったりする里山がありました。里山は野生動物と人間の境界地であり、野獣は里山を見る

危険地帯と悟っていたものと解決していかねばいけないのか。」「最近では人間が檻の中に居るような状況である。」「等々、現状を踏まえた悲痛な声飛び交いました。一度、壊した自然を再生するには、年単位の時間が必要だと思えますが、これは次世代のためにどうしてもやらなければならぬ課題だと思えます。

宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対協議会が取り組んでいるMDの活動にも期待をされているところですが、現状では二県を跨ぐ広域をホローするには頭数不足を感じているところだ。

MDCでは、昨年から追いた多頭数追いの訓練を行っているところであり、実際に遭遇して効果があるのかいまだに検証が出来ていない状況です。

地域の方々への周知は、名張市の催しや、ケーブルテレビ、関西中部圏のローカルテレビにも紹介されているところだ。

昔を振り返ると、犬は人間の為に村落を守ってきたという経緯もある中、地域を守る一員として立派に育て、被害に対応する使役犬として訓練していくことが重要です。

私たちが今問われているのは、自然界を乱した責任をどう取っていくかということだ。」「積年の里山をないがしろにした「つけ」を誰がどのよ

うに解決していかねばいけないのか。」「最近では人間が檻の中に居るような状況である。」「等々、現状を踏まえた悲痛な声飛び交いました。一度、壊した自然を再生するには、年単位の時間が必要だと思えますが、これは次世代のためにどうしてもやらなければならぬ課題だと思えます。

宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対協議会が取り組んでいるMDの活動にも期待をされているところですが、現状では二県を跨ぐ広域をホローするには頭数不足を感じているところだ。

MDCでは、昨年から追いた多頭数追いの訓練を行っているところであり、実際に遭遇して効果があるのかいまだに検証が出来ていない状況です。

地域の方々への周知は、名張市の催しや、ケーブルテレビ、関西中部圏のローカルテレビにも紹介されているところだ。

昔を振り返ると、犬は人間の為に村落を守ってきたという経緯もある中、地域を守る一員として立派に育て、被害に対応する使役犬として訓練していくことが重要です。

市議からの一言

名張市会議員・MDC会員
常俊 朋子

先日、伊賀市の鳥獣害についてお話を伺う機会がありました。

私たちは今問われているのは、自然界を乱した責任をどう取っていくかということだ。」「積年の里山をないがしろにした「つけ」を誰がどのよ

うに解決していかねばいけないのか。」「最近では人間が檻の中に居るような状況である。」「等々、現状を踏まえた悲痛な声飛び交いました。一度、壊した自然を再生するには、年単位の時間が必要だと思えますが、これは次世代のためにどうしてもやらなければならぬ課題だと思えます。

宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対協議会が取り組んでいるMDの活動にも期待をされているところですが、現状では二県を跨ぐ広域をホローするには頭数不足を感じているところだ。

MDCでは、昨年から追いた多頭数追いの訓練を行っているところであり、実際に遭遇して効果があるのかいまだに検証が出来ていない状況です。

地域の方々への周知は、名張市の催しや、ケーブルテレビ、関西中部圏のローカルテレビにも紹介されているところだ。

昔を振り返ると、犬は人間の為に村落を守ってきたという経緯もある中、地域を守る一員として立派に育て、被害に対応する使役犬として訓練していくことが重要です。

私たちが今問われているのは、自然界を乱した責任をどう取っていくかということだ。」「積年の里山をないがしろにした「つけ」を誰がどのよ

うに解決していかねばいけないのか。」「最近では人間が檻の中に居るような状況である。」「等々、現状を踏まえた悲痛な声飛び交いました。一度、壊した自然を再生するには、年単位の時間が必要だと思えますが、これは次世代のためにどうしてもやらなければならぬ課題だと思えます。

宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対協議会が取り組んでいるMDの活動にも期待をされているところですが、現状では二県を跨ぐ広域をホローするには頭数不足を感じているところだ。

MDCでは、昨年から追いた多頭数追いの訓練を行っているところであり、実際に遭遇して効果があるのかいまだに検証が出来ていない状況です。

地域の方々への周知は、名張市の催しや、ケーブルテレビ、関西中部圏のローカルテレビにも紹介されているところだ。

多頭数 追い払い訓練

宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対協議会では、MD導入以来5年目を迎え、現在の21頭のMDが地域の協力を得ながら順調に活躍しています。

だが、その成果は、地域によりバラツキがあり、大きな効果が出ていない地域もあるのが現状です。

MDCでは、その成果のバラツキを多頭数での追い払いで、解消できないものかと、実地訓練に取り組んでいます。

訓練は、サル群を見つけてから始まり、サル群と遭遇しなければ、その日の訓練は出来ず無駄足に終わります。

1月12日、訓練に同行取材させて頂きました。市役所8時30分集合。前日の出沒地点、上比奈知廣出地区へ直行。受信（強）。糞を目視。付近に潜んでいると思いい犬を放つが大きな反応なく、暫く待つ。受信音遠ざかり移動した模様。仕方なくB群エリアに移動。三本松「道の駅」で落

ち合い策を練る。三本松東小学校付近で受信ありとの情報で急行。山中で犬を放ち様子を見ることにしたが、犬達は大きな反応を示さず付近にはいない模様。やむを得ず訓練終了。周囲をパトロールし帰途についた。MDCではこの訓練を始め、約一年になりますが、まだ効果の検証は出来ていないのが実情です。

だが、被害根絶の陰にこのような地道な活動をしている人がいるといううことだけは、知って欲しいと思います。

冬から早春にかけて、森林の中のサルの餌が乏しくなるため、サルが他の季節より大胆に農地や集落に出没します。

さらに、日当たりがよく暖かい場所や餌が簡単に入手できるような特定の場所を中心に生活するようにします。

冬場のサルは食欲のかたまりです。手渡しで餌付けをする



ような人はいないと思いますが、無防備で畑の作物を食べられることが餌付けです。

収穫の終わった残り野菜や、廃果も餌付けになっています。

これが、サルの記憶の中に、「畑の野菜や果物がおいしかった」と残りの被害につながります。

本気で追い払う。サル撃退の基本は、まずサルに対して一歩前へ出ることです。

ロケット花火はサルにあてるつもりで撃つ。石を投げるなら、本気でぶつけるつもりで投げる。棒で追い払うなら、近寄ればぶん殴るつもりで。「しっ、しっ」ではサルにあなどられるだけ。

取られるものの少ない冬場のサルの動きも、サル対策を考える上ではとても大切です。

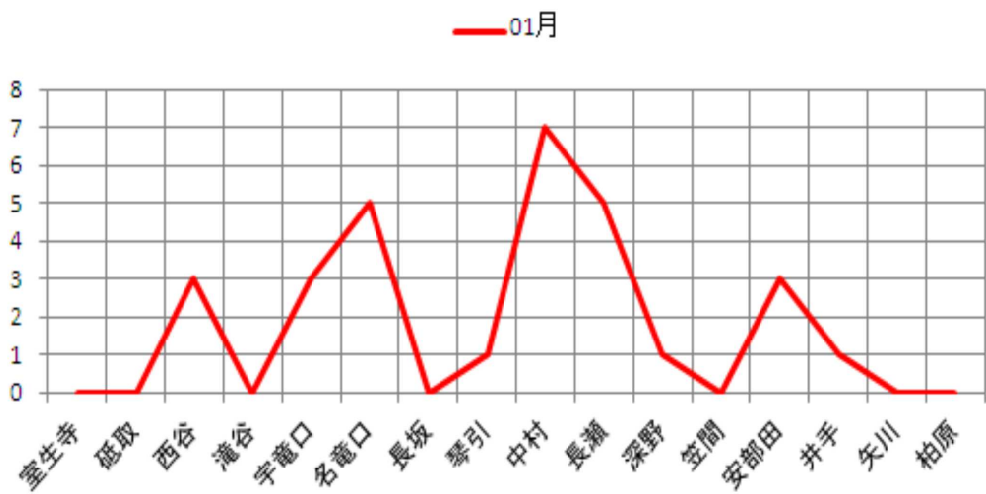
サル動向
指南員報告

1月に入りA、B群共に活動地域や移動距離が少なくなっている様子が伺えます。寒さを防ぐためか、日当たりのいい山の斜面や民家の屋根の上などに多く現れます。

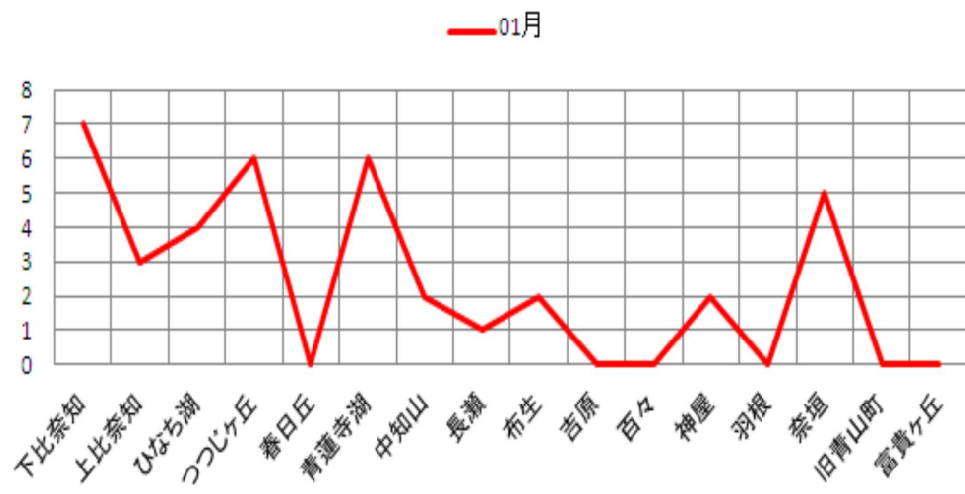
この時期は木の枝にある芽や秋に落ちた「どんぐり」など山で何かを食べているところを目にしますが、やはり山にはあまり食べ物がありません。

群れは秋の様に山中で滞在することは少なく民家や畑のあるところばかりを行います。大根や白菜など畑の冬野菜や、家に干してある玉葱などの被害が特に多く見られます。

2013名張B群移動グラフ



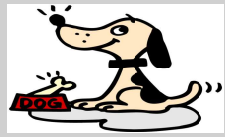
2013名張A群移動グラフ



モンキードッグ誕生秘話

永い野良生活

愛と絆



今回は、宇陀市室生に住む宮下さんの「ソロモン」と、名張市安部田の堀さんの「ブチ」のお話です。

モンキードッグ一期の宇陀市室生に住む「宮下ソロモン」推定8歳。名張市安部田に住む二期生の「堀ブチ」推定4歳は、ともにオスの成犬で野良生活の途上、幸運かつ運命的な飼い主との出会いにより保護され、人と犬との「葛藤」の時間をへて信頼と服従の関係を築き、野生動物扱いの犬の「認定証授与」に至りました。

認定犬は人の愛情と根気で生まれます。

出会い

『ソロモン』



室生のソロモンです！。右後足が不自由なんだ！。よろしくネ。

安部田のブチです！。よろしくネ。



飼主宮下さんとの出会いは7年前。野良生活中。不自由な後ろ足にめげず3本足で器用に歩いていて、フト、その目が合ったとたん離れられない仲になった。と、宮下さん。

『ブチ』

堀さん。自宅周辺を2年程前放浪中に捕獲され、保健所員が「野良生活が長く飼い犬には無理」と云うのを「責任を持って飼う」と押し問答の末、去年2月我が家に迎えこ

根気と努力

飼主の

ソロモンの場合は、先住の犬や猫たちが居て、彼の警戒心が自然と高ぶるが、我が家に溶け込んでい

きました。ただ自由気ままな野良生活の習慣から私の命令や指示などに服従するよう、知人の訓練士の指導を1年ほど個人的に仰ぎました。

また一番最初に慣らす必要を感じたのは「車に乗せる事」で、幸いソロモンはすぐに「車大好き犬」になってくれました。モンキードッグ認定式で、一期生の中で選ばれて「模範演技」を披露できるほど成長したのが本当に嬉しかったですね。

「人間の怖さ」を味わったのでしょ。そのブチとの共同生活は未だ1年半ほどで、何度か首輪が抜けたりして脱走したのですが、徐々に直ぐ戻ってくるようになり、今は

ブチ

を我が家に迎えるまでの野良時代は人に追いかけられたり檻を仕掛けられたり、何度も「人間の怖さ」を味わったのでしょ。そのブチとの共同生活は未だ1年半ほどで、何度か首輪が抜けたりして脱走したのですが、徐々に直ぐ戻ってくるようになり、今は

は怖がるので近くでは絶対に止めてほしいです。

参加の動機

ソロモンとも6年近い生活ですっかり「うちの子」になってリードを放した状態でも呼び戻しができるようになっていたところ、宇陀市広報で「野生動物扱い犬」の募集を知ったのです。室生はサル出没よりも鹿の被害が多くて、地区の皆さんも困っておられたので「ソロモン、頑張ろうね」と応募しました。

ブチ

の住む地区はサル被害が多く、国道側では一期生のエリーちゃんも活躍していたので追い払い犬の事はよく知っていましたし、ブチも野良犬時代、サルを追いかけていたこともあり、市の野生動物調査員の方からも訓練を勧められました。

去年9月頃は未だブチを飼いはじめて7、8ヶ月。私たちにやっと心を許してくれるようになりまして、他の人には警戒心を示すので、やはりキチンとした基本的な服従訓練を受けた方が今後のブチのためにも良いと思って参加を決めました。

認定後の活動

ソロモンは野生動物の扱いに慣れ、豊富な何の追いかけても逃げない度か山上公園付近まで行ってサルや鹿を追いかけていました。徐々にサルが来なくなってきたので、室生ダム近辺まで出張しています。

ブチ

を連れ毎週1回2時間の訓練を半年近く続けるのは大変でしたが、ブチが他の犬や飼い主さんたちとも交流できるようになり、たいへん良かったです。

でも潜伏していたフィラリアが出て安静のため追い払いを休んでいます。今後の事を考えると認定後も服従などの反復訓練の無料講習会開催を考えて頂きたいです。

以上は、平成23年頃伺ったお話です。

MD事業の現状

MD育成訓練への参加頭数も年々減少傾向にあります。それに加え、訓練士に依頼しての育成事業の打ち切りで、MDの全域への適正配置は、困難な状況です。

それを受け、宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対協議会協議会では、MD育成のための人材育成にとり組んでいます。

このような状況下、昨年認定されたMDは3頭と激減しています。

MDは現在までで21頭認定されていますが、昨年は飼主のご不幸や犬の死亡もありました。また、飼主の高齢化などで現在活躍されているMDは、当初より相当数減っています。

第3期認定犬

写真は、

昨年認定された第3期認定犬たちです。写真右は、伊賀竜口「森さんチ」の柴「茶郎」。左は、砥取の「池内さんチ」の黒ラブ「ピー吉」です。



て野生鳥獣を呼び寄せてしまうという話も聞きます。使用に際しては十分な塩抜きが必要です。※塩抜き漁網も販売されています。

編集後記

朝日新聞は、1月7日付け朝刊に、獣害問題を大きな見出しで一面トップで報じ、関連記事（ケモノと闘う村）を社会面トップに取り上げています。

融雪剤

先日、大雪で大量の融雪剤が道路に散布されています。

融雪剤の主成分は塩化カルシウムで、即ち人工の塩です。

道路に散布することにより、本来は塩分に乏しい野生動物のエリアに私たち人間が塩を届けているという結果になります。

融雪剤散布により、急激にシカなどの生息数が増えたい。そんな話も聞きます。

近頃、獣害対策コスト削減のため廉価な中古漁網が推奨されていますが、漁網には大量の塩分が含まれているので、かえっ